

公同礼拝

2022年9月25日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 詩 編 115 編1 節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩編 95 編1～3 節 (旧 933)

コリントの信徒への手紙一 15 章 12～19 節
(新 320)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 7 (1)

説 教 「死者の復活」 牧師 姜 脛米

祈 禱

讃 美 歌 234A (1)

献 金

頌 栄 542

祝 禱

後 奏

9月の祈り

天に国籍を持つものとして、礼拝生活が保たれ、祈りのこころが力づけられるように。

主にあつて召された信仰の先達たちを偲び、主にある救いと恵みの信仰を受け継ぎ、教会に連なる歩みを重ねることができるように。

平和を求める祈りが力づけられるように。

今日の祈り

不安と混乱の時代に礼拝が力づけられ、主のみ旨がこの世に現わされるように。大きな災害が続く中で、被災者が守られるように。

戦争と紛争の地にある弱いものが守られるように。平和が実現するように。

季節の変わり目にあつて、体調を崩している兄弟姉妹が力づけられるように。

「死者の復活」 姜 脛米

コリントの信徒への手紙一 15:12～19

キリストの十字架の死と復活は、パウロの宣べ伝えた福音の中心です。「『キリストは死者の中から復活した』と私は宣べ伝え、あなたがたはそれを信じたはずだ。それなのに、今あなたがたの中に、『死者の復活などない』と言っている人があるのはどうしたことか」それが、15章が書かれた理由です。

今は生きている私たちも、いつかは必ず死者になります。その私たちが、この世の終わりのキリストの再臨の時に、復活して永遠の命にあずかる、それが「死者の復活」です。キリストが復活したことは信じていても、この「死者の復活」は信じない人々

がいました。彼らが言っているのは、キリストが復活することはあり得ても、私たちが復活することはあり得ないということではありません。ここで問題になっているのは、復活する可能性があるのは誰かではなくて、神様は誰を復活させようと思っておられるのかです。問題は、神様のみ心はキリストだけを復活させることなのか、それとも私たちも復活させようと思っておられるのかです。

私たちは、肉体をもってこの世に来られ、十字架にかかって死んで下さり、そして復活された救い主イエス・キリストと、洗礼において肉体をもって一体とされました。そして聖餐において肉体をもってキリストの体と血にあずかり、それによって養われ、終わりの日に肉体をもって復活し、永遠の命にあずかる救いの完成を待ち望みつつこの世を生きます。

パウロは、今与えられている様々な恵みは、世の終わりの復活の時に与えられる恵みの、ほんの一部に過ぎないと言います。救いの完成は将来のことです。しかしその将来を希望をもって待ち望むことができるのは、今、恵みが与えられているからです。

しかし、確かに恵みにあずかっているけれども、それはまだ完成していないのです。与えられている恵みによって生かされつつ、まだ完成していない恵みの完成を待ち望みつつ、その希望に生きる、それがパウロの教える信仰です。そして神様が私たちに与えようとしていて下さる恵みは、与えられている恵みをはるかに超えた大きなものです。